

はくが鳥の命を、汝が親の命に轉じかへてとらせん、七色の草を集て、柳の木のはんに載て、玉椿の枝にて、正月六日の酉の時よりはじめて、此草をうつべしとあり、

〔守貞漫稿 二十六〕正月七日、今朝三都トモニ七種ノ粥ヲ食ス、七草ノ歌ニ曰、芹、ナヅナ、ゴゲウ、ハ

コベラ、ホトケノザ、スヽナ、スヽシロ、是ジ七種、以上ヲ七草ト云也、然ドモ今世民間ニハ、一二種ヲ

加フノミ、三都トモニ六日ニ、困民小農ヲ市中ニ出テ賣之、京坂ニテハ賣詞曰、吉慶ノナヅナ、祝テ

一貫ガ買テオクレト云、一貫ハ一錢ヲ云、戯言也、江戸ニテハ、ナヅナノト呼行ノミ、三都トモニ

六日買之、同夜ト七日曉ト再度コレヲハヤス、ハヤスト云ハ、俎ニナヅナヲ置キ、其傍ニ薪庖丁、火

箸、磨子木、杓子、銅杓子、菜箸等、七具ヲ添へ、歳徳神ノ方ニ向ヒ、先庖丁ヲ取テ俎板ヲ拍囉子テ曰、唐

土ノ鳥ガ、日本ノ土地へ、渡ラヌサキニ、ナヅナ七種、ハヤシテホト、ト云、江戸ニテ、唐土云々、渡ラ

ヌサキニ七種ナヅナト云、殘六具ヲ次第ニ取之、此語ヲクリ返シ唱へハヤス、京坂ハ此齋ニ蕪菜

ヲ加へ粥ニ煮ル、江戸ニテモ小松ト云村ヨリ出ル菜ヲ加へ煮ル、○中或書曰、七草ハ七ツ、七度、

合テ四十九叩クヲ本トス、

七日式

〔皇大神宮儀式帳〕一年中行事并月行事

正月例 七日、新菜御羹作奉、太神宮并荒祭宮供奉、○中右三箇日節、毎供奉禰宜、内人物忌等、集

酒殿院、被給大直會、

〔厨事類記 一〕臨時供御、○中院、宮儀、正月七日、若菜、莢茄實加進之、○中已上小預給料米備進

之、

〔故實拾要 三〕正月六日、七種菜、是自水無瀬家獻之、七日御獻、是自御臺所供之、又菜ノ御粥ハ

櫃司ヨリ供之、

〔禁中年中行事 正月〕六日、七種、水無瀬殿ヨリ獻之、